人権コラム　心、豊かに

◆ 「個」からの脱皮

日本人の長所は「親切」「勤勉」「礼儀正しい」—。文部科学省所管の統計数理研究所が、日本人の意識を探るため 5 年おきに実施している「国民性調査（2013 年）」の結果が公表されました。複数の選択回答が可能な 10 項目の中から 7 割を超える選択があった上記の 3 つの長所の中でも、「親切」は過去最高の選択率で 2003 年調査と比べると 30 ポイントの増加となっています。数理研究所は「東日本大震災の実直な対応を見聞きしたことの表れ」と分析しており、困難や苦境を乗り越えるため互いに手を差し伸べあう精神が日本人の心に深く響いているようです。

助け合いの精神の実感は他の調査項目でも読み取ることができます。「たいていの人は他人の役に立とうとしているか、それとも自分のことだけに気を配っているか」との問いに対して、1978 年の調査では「他人の役に～」はわずかに 19%で、74%が「自分のことだけ～」と回答し、いわゆる個人主義を色濃く映し出したものとなっていました。ところが、この設問は調査のたびに回答の差が縮まり、今回はじめて「他人の役に～」が「自分のことだけ～」を上回る結果になりました。

さらに注目すべき結果として、若い世代の「伝統回帰」が挙げられます。職場の人間関係について「仕事以外の付き合い」に賛同する若者は 7 割近くに上るとともに、「家庭的な雰囲気の会社」を望む声も増えています。職場の人間関係にかかわる価値観は、1970 年代の家庭的なものに回帰しており、心のつながりを追求する傾向にあるようです。「個」が重視され、「個」が活躍するだけでは社会は成り立たないとする感覚はとても重要です。家族的な空気と伝統を尊ぶ志向の高まりは、2015 年を心豊かな一年に導くことでしょう。

「広報ひた」　平成 27 年 1 月 1 日号掲載